

SDGs+探究学習から 商品開発

環境問題や差別、貧困、人権問題などの解決を目指した
「SDGs」の取り組みが、世界的に広がっています。
県内の学校でも、子どもたちや若者世代による
さまざまなアクションが始まっています。



高浜小学校5、6年生と「高浜明日研究所」のみなさん

児童たちの町への思いと創造する
楽しさを原動力に開発された品々は、
観光物販施設などで販売（一部予約
販売）。高浜土産としても好評を得て
います。



これまでに販売された商品。右「若狭ふじのゼリータルト」「UNIKARA」、中央「レモンだもん」「紫蘇ノ屋」、左「しそめん」



高浜の海岸で清掃活動。拾ったごみから集めたペットボトルのキャップは、児童たちのアイデアでキーホルダーになります。



赤紫蘇を利用した「しそめん」の商品開発に取り組む5年生。キャラクターやロゴも児童たちによるオリジナル



6年生が手がける「GOMIKARAキーホルダー」づくり。キャップにあるメーカーのロゴの消し方などにも苦心した製品がもうすぐ完成

大人顔負けの体制でアイデアを 発揮して新商品を開発

高浜小では4年前からSDGs活動の一環として、町の個性を生かした新商品づくりに取り組んでいます。開発を行うのは、5、6年生全員で構成する「コドモノ明日研究所」。児童が会社ながらに、製造部、営業部、デザイン部、広報部に分かれ試作からパッケージ制作、業者へのプレゼンまで担当します。

完成した商品は昨年までに4品目。高浜産レモンの飲料「レモンだもん」や、ウニの殻が優しい光を放つランプ「UNIKARA（ウニカラ）」ほか、どの商品も町内産の農産物をはじめ、身近に入手できる材料を使っています。「UNIKARA」は、魚の棲む藻場の大敵として駆除、廃棄されるムラサキウニを使い、児童が中身を取り除いて、LEDを取り付けました。

今年は「しそめん」と 「GOMIKARAキーホルダー」

今年の5年生が取り組むのは、青葉山麓産の赤紫蘇入りの「しそめん」。摘み取った葉を児童が粉碎し、専門業者が麺に加工。町のイベントで行った試食会では「紫蘇の風味がおいしく色もきれい」と来場者の評判も上々。一方、6年生は海ごみのペットボトルキャップで「GOMIKARA（ゴミカラ）キーホルダー」を作成。カラフルな作品が仕上がりつつあります。



子どもたちの活動で
いろんな物が町の宝に大変身!

高浜町立
高浜小学校

たかはま あした
2020年度から、まちづくり団体「高浜明日研究所」の協力のもと、「コドモノ明日研究所」と名付けた活動を開始。町内産の農産品などを材料とした商品開発に取り組む。児童のアイデア満載の商品が製菓店等の協力で完成し、販売されている。2023年、地域の課題に取組む活動として県の「ふるさとの学び特別賞」を受賞。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS